

大阪がめざすSDGs先進都市の姿 【中間整理案】

令和元年8月

目次

○ 概要	・・・ p. 4
○ 基本的な考え方	・・・ p. 5
○ これまでの主な取組み	・・・ p. 6
○ 有識者ワーキンググループの概要	・・・ p. 8
○ 有識者ワーキンググループにおけるこれまでの主な意見	・・・ p. 9
○ 「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」の明確化に向けた取りまとめの全体像について	・・・ p.10
○ 「SDGs17ゴールの到達点」について(個別ゴールの評価)	・・・ p.11
○ 「SDGs17ゴールの到達点」について(分析)	・・・ p.12
○ 「SDGs17ゴールの到達点」について(一定のまとめ)	・・・ p.13
○ 今後の検討の方向性	・・・ p.14
○ スケジュール	・・・ p.15
参考資料(有識者ワーキンググループ検討資料)	・・・ p.17
○ SDGs17ゴールの分析	・・・ p.18
○ 重点ゴール、優先課題の整理イメージ	・・・ p.20

- 大阪府では、昨年4月（H30.4）に、知事を本部長とする「**大阪府SDGs推進本部**」を設置。SDGsの**理解促進や各部署の主体的取組み**などを進めてきた。
- 「**中間整理**」では、議会や府民、企業、市町村など、様々なステークホルダーとの議論の土台となる「**SDGs17ゴールの府の到達点**」を整理するとともに、**今後の検討の方向性を示す**。
- 今後、他のステークホルダーとの対話を重ね、重点的に取組む分野などを明らかにし、**年度末までに「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」**をとりまとめる。



1. SDGsについて

- SDGsは、2015年の国連持続可能な開発サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための**2030アジェンダ**」で設定された**国際目標**。
- 「**誰一人取り残さない持続可能な世界の実現**」に向け、**大胆に変革していく**ことを基本理念に、**経済・社会・環境の三側面**から持続的社会的実現に向け、総合的に取り組んでいくこととしている。

2. 方針

- 大阪・関西万博のテーマ**である「いのち輝く未来社会のデザイン」は、まさに**SDGsが達成された社会**。
- 万博開催都市として、**先頭に立ってSDGsの達成に貢献する「SDGs先進都市」**をめざす。

〔そのために、まずは「**大阪がめざすSDGs先進都市の姿**」を明確にし、府民や企業、市町村など様々なステークホルダーと共有しながら、万博の視点、大阪の強みを踏まえ、**新たな取組みを創出**していく。〕

3. 府の役割

- ① 府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーに**SDGsを広く知っていただく**
- ② 様々なステークホルダーの取組みをSDGs実現に向けて相互に**つなぎ合わせていく**
- ③ 府**自らもステークホルダーの一員として、SDGsに貢献する**
- ④ 万博を絶好の機会に、**ハード・ソフト両面から「SDGsを具現化した都市づくり」を進める**

SDGsの取組みは、大阪が、未来に向かって持続的に成長し、府民一人ひとりが「豊かさ」や「安全・安心」を実感できる社会へと発展するための基盤づくりにつながるもの

平成30年度「第1回大阪府SDGs推進本部会議（H30.4.2）」

- 知事を本部長、副知事を副本部長とする庁内関係部局長によるSDGs推進本部会議を設置
- 当面の取組方向の決定：①SDGsの理解促進、②庁内各部局の取組みを通じたSDGsの推進、③今後の取組みの検討

①理解促進、企業や市町村との連携

理解促進関係

- ・万博誘致と連動した、展示会の開催、ショッピングモールでのブース出展等
 - ・包括連携協定を締結しているFC大阪と「SDGsスペシャルマッチ」の開催
 - ・その他、部局の主催する各種イベントにおける啓発活動
 - ⇒ららぽーと和泉におけるパネル展示（「体力測定会」「えほんのひろば」）
 - ⇒泉大津フェニックスコンサートでのパネル展示
 - ⇒サイクルイベントでのパネル展示
- など

市町村や企業との連携

- 庁内・市町村職員向け勉強会
 - ・市町村ブロック会議での啓発
 - ・関心のある市との個別意見交換
 - 府と企業との公民連携協定の締結
- など

②庁内各部局の取組み

SDGsを府の各種計画等に反映

- ・『「いのち輝く未来社会」をめざすビジョン』の策定
 - ・「大阪21世紀の新環境総合計画」の改定
 - ・「大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略」改定
- など

SDGs関連事業

- ・企業との包括連携協定締結時にSDGsの観点を反映
 - ・ATCグリーンエコプラザと連携した「SDGsビジネス研究会」の設置
 - ・中小企業向けセミナーの開催
 - ・大阪市と共同での「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」
- など
- ※ 理解促進関係は、「①」のとおり

③今後の取組みの検討

庁内各部ヒアリング

- ・セミナー等での啓発や計画への反映などできることから取組み。
 - ・部局内での更なる理念の浸透や庁外との連携が課題。
 - ・さらなる取組みを検討するも、具体化には至っていない状態。
- など

市町村ヒアリング

- ・役所内での意思統一や部局間での温度差が課題。
 - ・先進的自治体の取組事例や、民間企業など、ステークホルダーとの連携について情報共有が必要。
- など

有識者ヒアリング

- ・強みを伸ばす、弱みを克服するという観点が必要。
 - ・ターゲットを絞った取組みを進めていくことが重要。
 - ・大阪府であれば、外せない視点は万博。
- など

平成30年度「第2回大阪府SDGs推進本部会議（H31.2.14）」

○これまでの取組みの検証と、今後の方針決定

- 勉強会参加者の意識や姿勢が変化
- 府民認知度 約15%（H31.3）

各部局主催のイベント等での理解促進

- 取組み実績が進む一方、各部で濃淡
- 計画への反映等の次に踏み出せていない状態

計画への反映など、各部局の取組みを拡大

○大阪がめざすSDGs先進都市の姿の明確化

万博に向け、SDGsの達成を加速化するため、「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」の明確化を図り、大阪府はもとより、府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーとの連携・協調を進め、新たな取組みを広げていく

令和元年度の主な取組み

①理解促進、企業や市町村との連携

世界に向けた取組みの発信（G20）

- ・G20大阪サミットの大阪万博ブースにおいて、企業のSDGsに向けた取組みを紹介



G20大阪サミット（大阪万博ブース）

理解促進関係

- ・「SDGsトレイン未来のゆめまち号」へのポスター掲載
- ・SDGs未来会議
- ・シンポジウム 加速させよう自治体SDGs など

②庁内各部局の取組み

SDGs関連事業

- ・企業との包括連携協定締結時にSDGsの観点を反映
- ・海洋プラスチックごみ問題から考えるSDGsシンポジウム
- ・SDGsビジネス研究会
- ・企業向けセミナー など

SDGsを府の各種計画等に反映（予定含む）

- ・公共交通戦略
- ・自転車活用推進計画（仮） など

「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」 検討有識者ワーキンググループを設置

- 全体的な取組み方向性
- 「めざす姿」に向けた考慮すべき視点
- SDGs17ゴールの府の到達点の分析などについて議論を深めてきた

- 大阪がめざすSDGs推進本部の明確化にあたって、有識者WGを設置。
- これまで、計4回開催。（2019年4月22日、5月27日、6月24日、8月26日）

《有識者（所属五十音順）》

- 関西大学 社会学部 草郷 教授
- 国際協力機構（JICA）関西センター 西野 所長
- 株式会社日本総合研究所 村上 シニアマネージャー
- 法政大学 デザイン工学部 川久保 准教授
- 吉本興業ホールディングス株式会社 羽根田 SDGs推進本部長

〈これまでのゲストスピーカー〉

- 国連広報センター 根本 センター長
- WHO神戸センター 茅野 医官



《主な議題》

- 全体的な取組みの方向性
- 「めざす姿」を考えるにあたって考慮すべき視点
- 目標（ゴール）の考え方
- 府が注力すべき柱となるテーマ
- SDGs17ゴールに係る府の到達点や課題

有識者ワーキンググループにおけるこれまでの主な意見

<p>考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪の様々なステークホルダーが、SDGsに向けて意識し、行動することが重要。 ・大阪の地域性や府民目線を大事にすべき。府民の心に響く、届きやすいものとする必要。 ・府民や府内の企業がSDGsをどのように捉えているか、その声をしっかりと把握すること。 ・様々なステークホルダーを巻き込み、それらの取組みの関連性を活かし、つながるストーリーを展開。
<p>未来像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち輝く未来社会をめざすビジョン」を大きく前進、加速させるものではないか。
<p>視 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない」、「大胆に変革する」という国際合意の視点が重要。 ・「世界への貢献」と次世代に残す「ローカルな課題への対応」という2つのベクトルがある。 ・府には、大阪全体を「いのち輝く未来社会」に先導していく方策が求められる。 ・府は、府民の声を具体化できる市町村に独自の取組みを促すコーディネート役を担うべき。 ・強みを伸ばし、弱みを克服していくという考え方は、府民に伝わりやすい。 ・SDGsはビジネスにつながるものでもある。企業の力を引き出すことが重要。
<p>目 標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない」というSDGs社会の実現は、かなりチャレンジング。今の社会の弱みの克服と組み合わせ、野心的な目標を掲げて大阪の未来像を描いていくべき。
<p>時間軸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「2025年の万博までに取組むこと」、「2025年の万博開催時に達成すること」、更に「2025年以降に取組みを加速させていくこと」という3つの時間軸が必要。
<p>「SDGs先進都市」とは何か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・17ゴール全ての国内評価を高めていくこと。 ・現行の府の検証プロセスそのものが先進的な取組みであり、国際的に発信、可視化すべき。 ・主観的な視点で注力するゴールの指標をどこまで伸ばすことができるか、野心的に「上昇率」を設定し、それを達成していくこと（マニフェスト化）がSDGs先進都市としての評価につながる。 ・具体的な取組みの中で、「誰一人取り残さない」という考え方が社会で実践されること。 ・府民の「どうありたいか」という声をきちんと拾い上げることで、変革につなげていくこと。

重点ゴールや優先課題、時間軸の検討

- 「SDGs17ゴールの到達点」と「府の政策との整合性」を踏まえ、府として重点的に取り組むゴールや優先的に取り組む課題を整理
- 優先課題の改善や、強みを伸ばすことにつながる施策、具体的な取り組み分野、広域自治体としての役割などを検討
- 「2025年まで」、「万博開催時」、「2025年以降」という3つの時間軸の中で、どのような未来像を描いていくかを検討

17ゴールの到達点

「国際的な日本の評価」と「国内評価」から、それぞれの個別指標を踏まえ、SDGs17ゴールの府の到達点を整理

府の政策との整合性

大阪・関西万博やG20大阪サミット、各部局の取り組み、府政の中長期方針などとの整合性を考慮

様々なステークホルダーとの対話

府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーと対話を重ね、重点ゴールや優先課題の整理に、意見を反映させていく

(実施手法)

- ・意見交換
- ・ワークショップ など

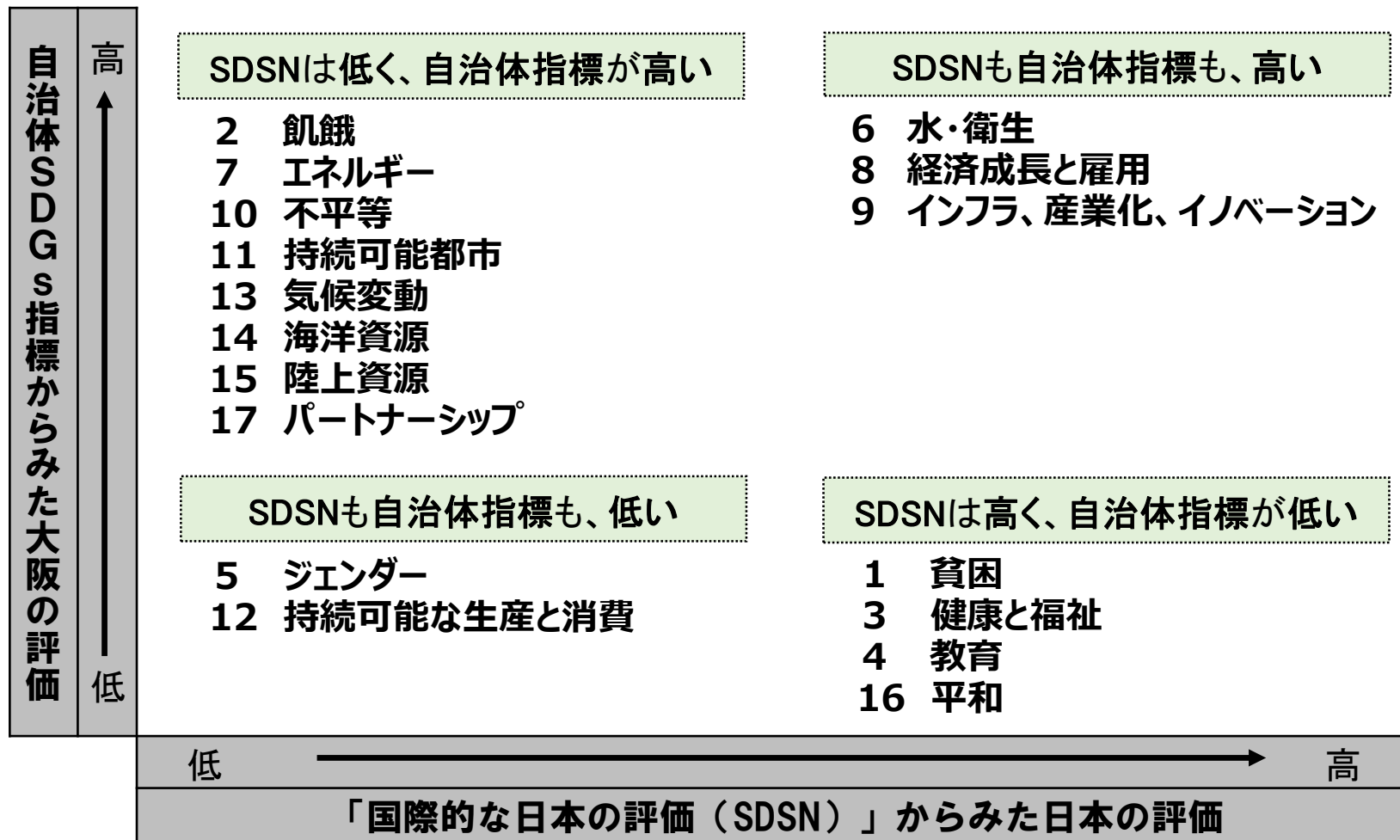
(内容)

- ・府の考え方との整合
- ・大阪がSDGsを実現するために最も重要なゴール など

「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」の明確化

「SDGs17ゴールの到達点」について（個別ゴールの評価）

- 「国際的な日本の評価（SDSN）」と「国内評価（自治体SDGs指標）」を一つの拠り所として、現時点における大阪のSDGs17ゴールの個別評価を次のとおり整理。
- 今後、府として、健康や福祉、農業、環境、エネルギー、人権、ジェンダーなど、SDGs17ゴールに関わる取組みを進めていく中で、特に注力して取組む「重点ゴール」や「優先課題」の検討につなげていく。



「SDGs17ゴールの到達点」について（分析）

○ 個別ゴールの評価に基づく、**有識者の意見を踏まえたSDGs17ゴールの分析**は次のとおり。

<p>■ 「SDSNも自治体指標も、高い」ゴール</p> <p>〔 6 水・衛生、 8 経済成長と雇用 9 インフラ・産業化・イノベーション 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大阪の強みを活かすことができるゴール。他のゴールの課題の克服や、先進事例の発信することなど、国際貢献につなげることができる。
<p>■ 「SDSNは高く、自治体指標が低い」ゴール</p> <p>〔 1 貧困、 3 健康と福祉 4 教育、 16 平和 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「1 貧困」では相対的貧困率や生活保護の割合、また、「3 健康と福祉」では癌などの死亡率や結核・HIVなどの感染者数、「4 教育」では小中学生の平均正答率、「16 平和」では人口当たりの刑法犯認知件数や児童虐待相談対応件数など、府民のいのちや暮らし、次世代の育成に関わる国内の個別指標が相対的に低い評価となっており改善が必要。
<p>■ 「SDSNは低く、自治体指標が高い」ゴール</p> <p>〔 2 飢餓、 7 エネルギー 10 不平等、 11 持続可能都市 13 気候変動、 14 海洋資源 15 陸上資源、 17 パートナーシップ 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「11 持続可能都市」は、まちづくりや災害対応、都市魅力や文化の創造、飢餓、エネルギー、不平等、気候変動、パートナーシップなど、他の全てのゴールを包摂する自治体にとっての重要なゴール。 • 天然資源の保護に関わる「14 海洋資源」、「15 陸上資源」は、水産業産出額や森林面積割合など、産業構造や地理的要件により大阪において大きく評価を高めていくことは難しい状況。一方で、廃プラスチックの削減やリサイクルの促進など環境負荷抑止の観点から「12 生産と消費」に集約して取り組むことができる。 • 「2 飢餓」、「7 エネルギー」、「10 不平等」、「13 気候変動」、「17 パートナーシップ」に関しては、それぞれ、土地の肥沃度や再生可能エネルギーの割合、また、国内の所得格差やCO2排出量、途上国支援額など、日本全体で改善が必要な指標に関する国際評価が低い一方で、国内においては、全体として高い評価のゴールであることから、引き続き継続して取り組む。
<p>■ 「SDSNも自治体指標も、低い」ゴール</p> <p>〔 5 ジェンダー、 12 持続可能な生産と消費 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「5 ジェンダー」は、国際的な日本の評価が低く、国を巻き込んだ形で取り組みを進めるとともに、配偶者からの暴力相談件数や強制わいせつ認知件数など安全・安心に関わる個別指標に関しては、「16 平和」に集約して取り組む必要がある。 • 「12 持続可能な生産と消費」は、持続可能な社会の構築のために重要なゴールであり、府民の関りも深く、また、途上国が先進国に対し強く期待するゴールでもある。

「SDGs17ゴールの到達点」について（一定のまとめ）

- 「**1 貧困**」や「**3 健康と福祉**」、「**4 教育**」、「**16 平和**」については、誰一人取り残さないというSDGsの理念や、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に不可欠となる府民の“いのち”や暮らし、また、子どもや孫など、将来の世代に関わるゴールとして、優先的に取り組むべき課題が多いと言えるのではないかと。
- 持続可能な社会を未来に受け継ぐ基盤となる環境関連のゴールを集約できる「**12 持続可能な生産と消費**」が国際的にも国内的にも評価が低いことに関しては、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」などのG20大阪サミットのレガシーを未来に生かすという観点から、取り組むべき課題があると考えられるのではないかと。
- これらの課題には、他の全てのゴールや自治体の様々な役割を包摂する「**11 持続可能な都市**」に関する取り組みや、「**8 経済成長と雇用**」、「**9 インフラ・産業化・イノベーション**」など国際的にも国内的にも評価が高いゴールの強みを活かすことが重要ではないかと。

○府民や企業、市町村など様々なステークホルダーと対話を重ね、以下論点を整理していく。

(論 点)

① 重点ゴールと優先課題について

- 万博やG20の視点、府の施策との整合性、優先順位などを踏まえたゴールや課題の絞り込みが必要ではないか。
- 府民など他のステークホルダーから見たわかりやすさの観点からゴールや課題の絞り込みが必要ではないか。
- 個々のゴールや課題の関連性、ストーリー性を意識した整理が必要ではないか。

② SDGs先進都市とはどのような都市なのか

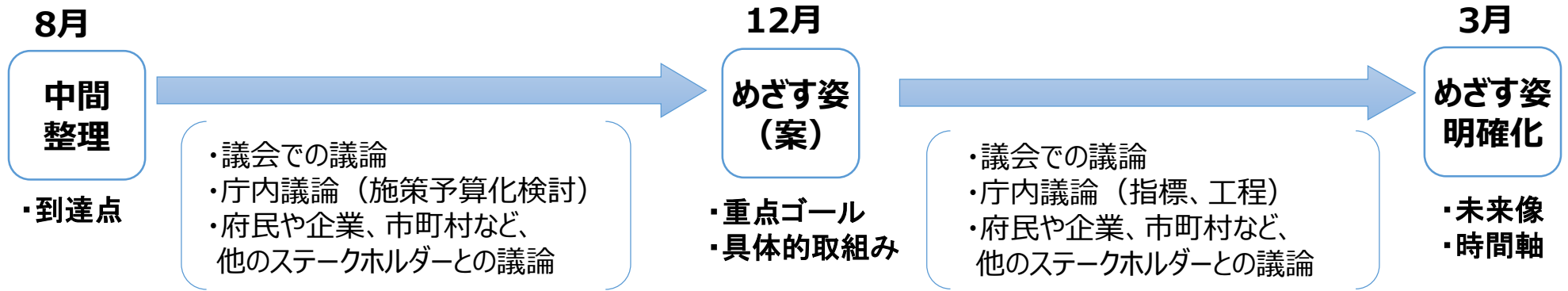
- 先進都市として、重点ゴール以外のゴールも、当然に国内外からの評価を高める取組みを進めるべきではないか。
- 国際社会から見て先進都市として評価される取組みとは何かを考えるべきではないか。

③ 具体的な取組み分野や手法

- 市町村を支援するなど、広域自治体としての役割を考える必要があるのではないか。
- これまでの取組みの延長ではなく、SDGsとして取り組むからこそできる「大胆な変革」を意識すべきではないか。

④ 未来像(めざす姿)、時間軸

- 2025年までの取組み、2025年に実現・発信すること、2025年以後という3つの時間軸で整理が必要ではないか。
- 誰一人取り残さない、世界を変革するというSDGsのコンセプトを踏まえ、野心的で大胆な未来像を描くべきではないか。



当面の取組み（「めざす姿(案)」の取りまとめに向けて）

- 8月27日に「SDGs推進本部会議」を開催し、中間整理案について議論。
- 中間整理案を踏まえ、重点ゴールや優先課題の絞り込みについて更に議論を深め、各部局においては、具体的な施策や必要な予算化について検討を進める。
- また、国の「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」への応募を検討するとともに、府内市町村に対しても働きかけを行う。
- これらの動きと合わせ、府民や企業、市町村等と中間整理案をもとに意見交換を行い、認知度の向上や、主体的な取組みの推進、ステークホルダー間の連携促進などを図るとともに、重点ゴールや優先課題の整理にも反映させていく。

参考資料 (有識者ワーキンググループ検討資料)

○ 「SDGs17ゴールの到達点」の整理(詳細)

「国際的な日本の評価 (SDSN)」と「国内評価 (自治体SDGs指標)」から、それぞれ個別指標の達成状況や相対的な評価を整理

◆ 国際評価 (SDSN)

世界各国のSDGs達成度、ゴール毎の取組を調査した、「国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)」と「ベルテルスマン財団」(ドイツ) が公表している指標。

国際評価は、以下のように表示。

- ・「順調に進んでいる：A」、
- ・「改善しているが目標達成が困難：B」、
- ・「目標達成が困難：C」、
- ・「状態が悪化している：D」

◆ 国内評価 (自治体SDGs指標)

SDGsの指標が世界、国家レベルでしか存在しないこと等を背景とし、自治体の現状を把握することを目的に、「建築環境・省エネルギー機構」が公表している指標。

国内評価では、国内全ての自治体の値を集計し、100～0に指標化し、以下のように表示。

- ・「100以下：A」
- ・「75以下：B」
- ・「50以下：C」
- ・「25以下：D」

※突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標などは、独自に評価から除外して整理。

○ 重点ゴール、優先課題の整理イメージ

今後、重点ゴールや優先課題について議論を深めていくうえでの最終的な整理イメージ

SDGs17ゴールの分析 (ゴール1～9)



ゴール	類型	全体	主な指標	有識者の主な意見
ゴール1 貧困	日本の国際評価	B	「A」 絶対的貧困率 「D」 相対的貧困率	<p>➤ 今後、特に注力して取組みを進めるべき。</p> <p>➤ 相対的貧困割合が高いことや生活保護の世帯割合が高いことは重要な課題。</p>
	大阪の国内評価	C	「C」 相対的貧困世帯割合 「D」 母子世帯への平均保護受給期間	
ゴール2 飢餓	日本の国際評価	C	「A」 栄養失調者の割合 「C」 土壌栄養レベル	<p>➤ 栄養関連の指標が相対的に良い評価となっているが、それをもって「今後、何も取り組まなくても良い」というわけではない。むしろ死守すべき評価として受け止め、引き続き、継続して取組みを進めるべき。</p>
	大阪の国内評価	A	「A」 栄養失調者、ビタミン欠乏症の総患者割合	
ゴール3 保健	日本の国際評価	B	「A」 健康寿命 「B」 結核発生率	<p>➤ 今後、特に注力して取組みを進めるべき。感染症関連の個別指標が厳しい評価となっていることは重要な課題。</p> <p>➤ ゴール3は万博のテーマと関わりが深く個別評価に関わらず外せないゴール。</p>
	大阪の国内評価	C	「D」 HIV感染者数 「D」 心血管疾患、がん、糖尿病の死亡率	
ゴール4 教育	日本の国際評価	A	「A」 就学率 「A」 学習到達度スコア	<p>➤ 今後、特に注力して取組みを進めるべき。</p> <p>➤ ゴール4は、将来を担う次世代の育成という観点があり、学力などの個別指標の評価が悪いことについて、改善傾向にあるものについても、他のゴールより重く受け止めるべき。この点においても注力すべきゴールといえる。</p>
	大阪の国内評価	C	「D」 小学生の国語・数学・理科平均正答率 「C」 中学生の国語・数学・理科平均正答率	
ゴール5 ジェンダー	日本の国際評価	D	「D」 男女間賃金格差 「D」 無賃労働に割く時間の男女差	<p>➤ 今後、特に注力して取組みを進めるべき。国際的に日本の評価が低いことを国の問題にせず、重く受け止めるべき。</p> <p>➤ 女性は人口の半数を占める。ゴール5は、他のゴールに比べ最も対象者が多いということであり、その点からも重要なゴールといえる。</p>
	大阪の国内評価	C	「C」 配偶者からの暴力相談件数(人口比) 「D」 都道府県議会における女性の割合	
ゴール6 水・衛生	日本の国際評価	B	「A」 安全に管理された水道サービスの使用人口 「B」 再生可能な水資源総量に対する取水割合	<p>➤ 順調に取組みが進んでいるゴールとして、引き続き、継続して取組みを進めるべき。</p>
	大阪の国内評価	A	「A」 給水普及率割合 「A」 下水道処理人口普及率	
ゴール7 エネルギー	日本の国際評価	C	「A」 電力にアクセスできる人口 「D」 最終エネルギー総消費量に占める再エネの割合	<p>➤ エネルギー問題は、万博とも関連が深く、府民の声をしっかり聴きながら、引き続き、継続して取組みを進めるべき。</p> <p>➤ 新エネルギー発電割合が厳しい評価となっているが、国家レベルで進めるべき課題。</p>
	大阪の国内評価	B	「B」 人口あたり電力エネルギー消費量 「D」 新エネルギー発電割合	
ゴール8 経済成長・雇用	日本の国際評価	B	「B」 実質成長率 「A」 雇用率	<p>➤ 若者の失業は、国際的に大きな問題。大阪の失業率は改善傾向にあるが、他の自治体に比べ、高いことをどこまで課題と捉えるか、府民の感覚と齟齬がないよう注意し、引き続き、継続して取組みを進めるべき。</p>
	大阪の国内評価	B	「A」 人口あたり県内総生産 「D」 失業率	
ゴール9 インフラ、産業、イノベーション	日本の国際評価	A	「A」 貿易や輸送に係るインフラの質 「A」 研究開発費	<p>➤ イノベーションの創出は、他のゴールの様々な要素に関連。例えば、「ゴール4教育」と関連を持たせるなど幅広い観点で、引き続き、継続して取組みを進めるべき。</p>
	大阪の国内評価	B	「B」 製造業のCO2排出量 「D」 県内総生産当たりの研究開発費	

SDGs17ゴールの分析 (ゴール10~17)



ゴール	類型	全体	主な指標	有識者の主な意見
ゴール10 不平等	日本の国際評価	C	「C」 ジニ係数 「C」 高齢者の貧困率	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 個別指標が少ないことに留意が必要だが、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶ 不平等は他のゴールでも生じる。都市と農村、職業間格差など、他のゴールで生じる不平等にも留意し、課題として取組みを進めていくべき。
	大阪の国内評価	B	「C」 相対的貧困世帯割合 「A」 労働生産性	
ゴール11 持続可能都市	日本の国際評価	C	「C」 可処分所得の40%以上の家賃を支払っている人の割合 「C」 公共交通機関の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 他の全てのゴールを包摂する、自治体としてははずせないゴールとして、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶ 個別指標のうち、災害対応に関する指標だけは、厳しい評価でないことをもって良しとすべきでない。防災や強靱なまちづくりは、外せない視点。
	大阪の国内評価	B	「A」 市街化調整区域面積割合 「D」 人口当たり公園面積	
ゴール12 持続可能な生産と消費	日本の国際評価	D	「D」 電子廃棄物の発生量 「C」 SO ₂ 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 今後、特に注力して取組みを進めるべき。 ▶ 持続可能な社会の構築のために重要なゴール。府民の関わりが深く、途上国が強く先進国に期待しているゴールでもある。
	大阪の国内評価	C	「B」 有機廃棄物割合 「D」 リサイクル率	
ゴール13 気候変動	日本の国際評価	D	「D」 1人当たりエネルギー関連CO ₂ 排出量 「A」 化石燃料排出に含まれるCO ₂ 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 気候変動に伴う災害対応の視点は重要。ゴール11に集約して考えるなど、災害対応を課題としてしっかり位置づけ、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	A	「B」 災害等の自然外因による死亡割合 「A」 温暖化防止対策地方実行計画における緩和策定有無	
ゴール14 海洋資源	日本の国際評価	C	「C」 海洋衛生指標 (きれいな水指数) 「D」 E E Zで過剰利用されたもしくは崩壊した海洋資源割合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 廃プラスチックの削減はG20大阪サミットのレガシー。「ゴール12 (つくる責任、つかう責任)」に集約して考えるなど、外せない視点。 ▶ 個別指標は、都市部では劇的に改善が難しいものとなっているが、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	—	(「水産業産出額」などの水産関連指標)	
ゴール15 陸上資源	日本の国際評価	C	「D」 絶滅危惧種の生存指数 「C」 輸入による生物多様性の脅威にさらされている生物数	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 個別指標は、都市部では劇的に改善が難しいものとなっているが、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	B	「C」 耕作放棄地面積割合 「A」 生物多様性地域戦略に基づく計画の策定有無	
ゴール16 平和	日本の国際評価	B	「A」 人口10万人あたりの殺人 「A」 児童労働に関わっている5-14歳の子ども	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 今後、特に注力して取組みを進めるべき。 ▶ 個別指標の多くが厳しい評価となっていることについて、改善傾向にあるものについても、全国で相対的に悪いという事実は課題として受け止めるべき。
	大阪の国内評価	D	「D」 人口あたりの刑法犯認知件数 「D」 20歳未満あたりの児童虐待相談対応件数	
ゴール17 実施手段	日本の国際評価	D	「D」 政府開発援助を含む諸年の公的資金による援助 「D」 金融秘密度指数 (企業の透明性など)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このゴールは、世代や性別を超えた取組みを広げるというSDGsの理念とも深く関わっており、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶ 今後、個別指標が充実し、課題が明らかとなった場合には、注力して取組むことが求められる。
	大阪の国内評価	A	「A」 世帯あたりのインターネットブロードバンド契約率 「A」 インターネット普及率	

○府民から見て、わかりやすく、届きやすいものとなるよう、柱となるテーマに関わるゴールを中心に、SDGsの「持続可能な開発の3側面（経済、社会、環境）」を踏まえ、それぞれの取組みが関連性を持ち、ストーリーとしてつながり、広がっていくイメージで整理。

整理イメージ（今後、議論を深める中で、具体的に検討していく）

